

男女がともに介護に向き合うには

介護についての疑問や問題点

? 介護する人は、なぜ女性が多いのでしょうか。



- ◎フルタイムで仕事をしている男性が多く、介護する時間的余裕がない。
- ◎重労働のわりに賃金が安く、特に家庭を持つ男性に敬遠されやすい。
- ◎「介護は女性、仕事は男性がすべき」という固定的性別役割分担意識がまだ残っている。
- ◎家事や育児経験のある女性は、男性に比べ介護活動に慣れるのが早い。

? 介護は、女性主体ではいけないのでしょうか。



- ◎介護者(女性)への精神的・肉体的負担が増し、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が崩れたり、女性の社会進出の遅れにつながったりするおそれがある。
- ◎介護は女性の役割と決めず、性別を問わず個人が得意なことを生かした介護を行う方が効率的である。

? 女性の介護者・男性の介護者それぞれの立場で、どのような問題点がありますか？



〈女性が介護者の場合〉

- ◎女性が介護するのが当然といった雰囲気がある。
- ◎細かい気配りを要求され、精神的に負担がかかる。
- ◎力仕事が多く、肉体的な負担が大きい。

〈男性が介護者の場合〉

- ◎仕事を抱えながらの介護は負担が大きく、仕事を辞めざるを得ないケースもある。
- ◎友人・知人に介護の悩みを相談できず、一人で悩みを抱え込んでいる。
- ◎介護に不慣れなため、介護の基本となる日常の家事に苦勞している。

解決へのヒント

◎従来の考えを改める

これまでの「介護は女性、仕事は男性」という考えを、「介護は男女がともに協力して行うもの」と改めることが大切です。男女が協力し、今まで主に女性が担ってきた介護の負担を軽減することが、男女共同参画社会の実現に少しでも近づくことにつながるのではないのでしょうか。

意識の改革



◎職場環境の整備

介護保険法や介護休業法など、法律の整備は進んでいますが、それが職場ではうまく活用されていないのが現状です。企業と職員が一体となって助け合い、仕事と介護を両立できるような職場環境をつくるのが重要です。

企業の努力

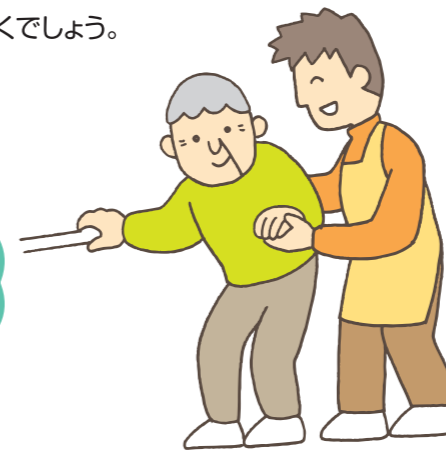


◎行政・家族・地域との連帯

介護の全てを一人でこなすのは非常に大変です。行政の介護サービスを積極的に利用したり、家族や近所の方の助けを借りたりして、介護の負担を一人に集中させないようにする必要があります。

そのためには、介護での悩みを一人で抱え込まず、まずは周りの人に相談しましょう。介護する人が声を上げることで、他の人々が問題意識を持ち、問題解決への第一歩を踏み出すことになるのです。そうすれば、行政・家族・地域との連帯がスムーズに進み、介護を行う環境は整っていくでしょう。

仕事と介護の両立



介護老人保健施設の施設長を務められたこともある山中さんに、施設や病院での介護現場における男女共同参画の現状を伺いました。



厚地リハビリテーション病院
リハビリテーション科・神経内科医師
山中 弘子さん

男女それぞれの個性を生かした介護を

病院や介護施設で活躍する男性看護師や介護福祉士が増えてきています。男性職員は、力仕事だけではなく、女性の視点とは異なったイベントやレクリエーション等を企画し実行することで、施設の雰囲気を盛り上げたり、女性職員に不快な言動を行う方へ対応するなど、施設内で重要な役割を果たしています。介護活動そのものは家事や育児の経験がある方のほうが向いているのかもしれませんが、男女それぞれの良いところを生かして介護を行えるようになれば素晴らしいことだと思います。

核家族化や少子化が進み、家族内で介護できる人が減少しつつありますが、介護休業法の改正など、介護に関する制度は整備されてきています。それらの制度や介護サービスを最大限に活用していくことが男性の介護への参加につながっていくのではないのでしょうか。